

決議

高規格幹線道路は、新型コロナウイルス感染症が長期にわたり国民生活を脅かす中においても、我が国の経済活動を維持するための大動脈として重要な役割を果たしている。また、頻発・激甚化する自然災害に対して、避難や救急救命・復旧活動等の役割を果たし「命の道」としての機能を発揮している。

しかしながら、高規格幹線道路網の進捗率は近年高まっているものの、整備が大幅に遅れている区間が未だ多く残され、未整備区間における経済振興や大規模災害時の支援に対する重大な課題となっている。

また、既存区間においては暫定二車線の四車線化や老朽化対策、防災機能の強化などが急務となっている。

よって、本協議会の総意をもって、特に次の事項について強く要望する。

記

- 一、高規格幹線道路網一万四千キロメートルの早期整備を図るとともに、高規格幹線道路と一体となって高速交通体系をなす、地域高規格道路の整備を進めること。
- 一、暫定二車線区間を早期に四車線化すること。
- 一、道路整備等を長期安定的に実施できるよう財源確保に万全を期すこと。
- 一、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の予算・財源を確保し、計画的な事業の推進を図ること。また、5か年加速化対策後も必要な予算を継続的に確保し、災害に強い道路ネットワークを構築すること。
- 一、地震や豪雨、豪雪などの災害時でも交通機能を維持できるよう、高速道路の一層の危機管理強化を図ること。また、津波や洪水の緊急避難施設など高速道路を利用した防災に資する整備を推進すること。
- 一、老朽化が進む高速道路の安全・安心を確保するため、予防保全の十分な財源を確保するとともに、維持管理・更新に関する新技術の開発・導入について一層の支援を図ること。
- 一、多重衝突や大型車両による事故など、重大事故に対する万全の安全対策を講じること。
- 一、物流の効率化、地域活性化、利便性の向上等を促進するため、渋滞対策やインターチェンジの整備促進、サービスエリア等の機能向上を図ること。また、コロナ禍からの復興のため、高速道路周遊パスなど観光需要の喚起が期待される取り組みを推進すること。

以上、決議する。

令和五年二月一日

第四十九回 全国高速自動車道市議会協議会 定期総会